

近藤 紗智子〔事務局長〕

岡山の緑と水と空気を守る連絡会



先日、「岡山の緑と水と空気を守る連絡会」(以下「わが会」)の事務局次長 Y さんが、ロシアを旅した。白樺と草原、色とりどりの草花が溢れるロマンチックな自然を巡るシベリア鉄道に乗って、大陸を横断した。その旅日記の一部が「わが会」のブログに写真入で掲載されている。掲載文を読みながら流石に広大な面積のロシアだけに、温暖化の現れもダイナミックだと変な風に感心した。

しかし、そんな軽い思いとは裏腹に、気分は塞ぎばかりであった。写真(上)は沿線から写した森林の焼け跡、写真(下)は火事の煙に霞むモスクワ大学である。Y さんの話では、シベリアの森林におおわれた泥炭に火が付きその火が地中に埋まっている泥炭の層を焼きながら広がって行くそう。



地下を這うように広がっていく泥炭火災に気づかず集落が消失した地域もあったそう。

ウラジオストックからモスクワまでシベリア鉄道が横断する 9297 km の地域は、宗谷岬より以北にある。平年の最高気温は 25 だそう。今年は 38 の記録的猛暑に襲われた。泥炭や白樺、針葉樹などの火災が相次ぎ、各地に被害が続出。首都モスクワにまで、煙や煤塵が飛んで夜眠るときもマスクをしなければならぬほどだったという。

Y さんが火事の現場近くを、列車で通

り抜けて居る頃、日本でも、ロシアの森林火災が報道された。ロシア政府非常事態省は、7月28日現在、火災発生件数 282 箇所。今夏、原野消失面積は 41 万 8000ha を発表したと新聞は報じていた。その後、森林火災はさらに広がり、Y さんが帰国したときには、700 箇所を超える火災件数に増加していた。私が新聞報道で森林火災を知った時は、深刻な地球温暖化問題だと思ったがさほど切迫感はない。しかし、身近な友人が体験した話は活字より説得力があり、広大な森林や、集落の火災が見えるようであった。「火事を、消すものは誰もいなかった」「泥炭地はいったん火がつくとなかなか消えないと聞いた」と Y さんはいう。人間が発生させた環境破壊が人間の力では、食い止められないことを思い知らされた。改めて自然の猛威を強く感じた。

新聞にはロシアの森林火災の状況と合わせて、南米ペルーでは、気温がマイナス 24 まで下がり死亡者が出ていると報じている。ロシアなどの猛暑や南米の寒冷化の原因は、偏西風の蛇行であるが蛇行の原因は複雑で明らかにされていない。

諸外国の大きな気候変動、とくにロシアの森林、泥炭火災は地球温暖化最悪のシナリオメタンハイドレートの融解とメタンバーストによる地球炎上を彷彿させ、気が滅入る。Y さんも、「もうダメかな」と思ったと印象を語った。

地球温暖化の進行は、いったいどのレベルにあるのか分からない。しかし、私自身の予想をはるかに超える速さで進んでいるように思える。Y さんが「もうダメかな」とつぶやいたのも、日本では見ることがなかった森林火災の規模や速さを目の当たりにしたからであろう。温暖化現象が産み出した激しい気候変動に、直面すると誰しもたじろぐのではないだろうかと思った。

しかし、なにはともあれ、今私たちにできることは、諦めずに温暖化防止の運動を続けること。そして、環境保全の活動を多くの人に訴えることであろう。

世の中には、まだまだ、沢山の人が困難な中で、自然豊かな環境を守る運動を続けている。先日お会いした NPO 法人「ふれあいの里・高梁」の理事長小見山氏もその一人であった。小見山氏は、「高梁美しい森」の管理に携わって 10 年近くなる。「高梁美しい森」の維持管理を県から委託され NPO 法人を結成し自主的活動を続けている。

NPO 法人結成理由は、里山を守り、生活できる地域を取り戻すこと。過疎・高齢化によって、荒れ果てた山や田畑を「地域の力」と、自然環境に触れたい、守りたいという願いをもったと都市部居住者の力を繋ぐことであった。

しかし、所期の目的達成は、大変困難な状況であるが、「次世代が育つまで、山間地を何とか持ちこたえさせたい」「結局、その繋ぎの役割が自分たちの仕事」であると語った。愉快的気分になったのは、「近い将来、日本が木材の輸出国になる。なぜなら、現在の木材輸出国は、売りさばく木が消失しているから」と笑った。決して奇想天外な話ではないと思った。厳しい林業の現状をしっかりと踏まえているが決して失わない展望に私も鼓舞された。

環境を守る運動を展開している私たちは、次世代が育つまで懸命に繋ぐこと。それが地球環境保全の最も近道になるのではないかと考えた。

小見山氏を訪問したのは、環境ネットワーク自然環境部会が来年 2 月に開催する、森林問題シンポジウムの企画にご協力いただくためであった。この企画は、昨年開催の「アママ場再生」のシンポジウムに続く第 2 弾である。森と人間、森と瀬戸内海そして日地球環境と瀬戸内海をぜひ多くの人々と、ともに考えたいものだと考える。

近藤 紗智子 氏

1944 年 6 月 18 日生。

岡山の緑と水と空気を守る連絡会事務局長。

(財)おかやま環境ネットワーク評議員。